

1. “クルーズは誤解されている”

元 教 授

- ① 「クルーズは案外安い」 一例として「西カリブ海 8 日間」の料金表を見てみよう。最も安い部屋だと 11 万円、最高のスイートでも 30 万円（1 ドル＝100 円）である。

マイアミ発着だからこれに航空運賃とホテル 1 泊分が必要。船内でのアルコール代やチップ・税金なども。因みにマイアミ往復 42,000 円の航空券なんてのもある。

とは言え、熟年世代としてはあまりケチケチ旅行もなあ、という向きには海側バルコニー付き 16 万円ぐらいはフンパツしてほしい。さらに飛行機をビジネスクラスに格上げすれば、それはもうハッピーになれること請け合い。

- ② 「最近の大型船はあまり揺れない」 外国船は大型化を競って今や 14 万トンクラス・乗客 3,000 人、14～5 階建てのビルが浮かんでいるようなもので、揺れ防止の機器も発達している。なお①の安価の理由はまさにこの大型化がもたらしたもの。

2～3 万トンクラスが主流の日本船はコスト競争で太刀打ちできない。有名な飛鳥Ⅱが 5 万トン・乗客 800 人で最大。だから日本人の超金持ちジイさんバアさんだけが乗り、夕食が済むとすぐ寝てしまい朝早くゾロゾロ・ヨタヨタとデッキを徘徊する。

- ③ 「船のしきたりは緩和傾向にある」 映画のタイタニックなどを連想して、厳しいドレスコードや船内生活の格差を危ぶむ人がいるが心配はいらない。男はダークスーツ・奥方は和服なんていう手もある。キャビンの値段で差別なんてまったく無い。

またまた、とは言え、なのだがドレスコードも楽しんでしまうのがおすすめ。コナカにはスーツ並みでタキシードを売っているし、イブニングドレスだってデパートのバーゲン時期には半額なんていうことあるようだ。

- ④ 「船上生活で退屈なんてしない」 朝食前にジムでストレッチやエアロビ。

午前中はカルチャー教室で水彩画やダンスを習う。午後はプールでひと泳ぎしてジャグジーでぼんやり。3時のお茶の後はカジノをひやかしたり、バルコニーで海風に吹かれながらウィスキー片手に持参の本を読む。

夕食が済んだらショータイム。ブロードウェイスタイルのショーや歌ありバンド演奏あり。トークショーは理解不能だから、どうせ解らないならと映画館へ行ったり、バーのハシゴをしたり。デッキで満天の星を眺めるなんていうのもオツなもの。

2. “クルーズの上手な申し込み方”

- a 「最初はパッケージツアーに入ってみる」 添乗員付きの団体ツアーで、飛行機やホテル、中には寄港地での観光まで組み込まれたものがあり手間なしである。船内で毎日発行される新聞（船内の催しなど一切の情報がこの中にある）を翻訳してくれるなど、外国のコトバが苦手な御同輩には楽チンである。

夕食だけ、テーブルが固定されるので団体で座ることになる。その時以外は自由なのだが、なぜか日本人（オバサン達）は何をするにも群れていることが多い。

- b 「エージェントの種類」 もとは①クルーズ専門の小さな旅行代理店が中心だった。ところがブーム到来で集客力の強い②有名旅行社や③ネット専門の代理店が進出してきている。それぞれに長短があるのは言うまでもない。

例示すると、①では「ゆたか倶楽部」「クルーズプラネット」「PTS」など。②では「JTB」「阪急旅行社」「近ツリ」など。③は「eクルーズ」「ベストワンクルーズ」「PRIクルーズ」など。

- c 「エージェントの選び方」 パッケージツアーに入っちゃおうと決めたのなら、上記 b の①と②からパンフレットを取り寄せる。最近はクルーズの新聞広告も増えたからそれをきっかけにするとよい。料金は②よりも①の方が割安傾向だ。

個人で、というならまずはネットで上記 b の③へアクセスし、HPを閲覧すると同時にメルマガ登録をするとよい。お得な情報と称するものが来る。個人の場合、航空券やホテルの手配が必要となるが一括頼んでしまうこと

もできる。私は目下、「e クルーズ」で船と寄港地での観光（エクスカージョン）を頼み、航空券とホテルを「H I S」に頼むというのが気に入っている。

なお、上記 b の①のクルーズプラネットは HIS の子会社、同じく PTS は JTB の子会社なので、団体・個人いかようなプランにも対応してくれるはず。

- d 「まずはどこへ行ったら？」 おすすめはカリブ海かハワイ 4 島めぐり。どちらもリーズナブルな価格と日程が楽しめる。商売の妨害になるが、日本船や日本近海のショートクルーズは止めた方がよい。船旅は非日常を楽しむものだと思うから。

では、ボン・ボヤージュ！